

伊那谷・経済動向

中小企業景気レポート



アルプス中央信用金庫

<http://www.alupuscho-shinkin.jp/>

ALSHIN
BANK

主要指標	今期	前年同期	前年同期比	
有効求人倍率 (伊那公共職業案内所管内)	2020/5 0.83 倍	2019/5 1.53 倍	前年同月比 -0.7 倍	
自動車新規登録台数 (松本自動車検査 登録事務所管内)	新車	4,910 台	7,170 台	-31.52 %
	中古車	2,084 台	2,347 台	-11.21 %
	合計	6,994 台	9,517 台	-26.51 %
住宅新設着工数 (戸建、共同住宅を含む) (伊那市、駒ヶ根市、上伊那郡)	3~5月 174 件	3~5月 219 件	-20.55 %	
駒ヶ岳ロープウェイ乗車客数 (1/3~運休)	2,735 人	19,264 人	-85.80 %	
中央道利用台数 (伊北インター分)	入	201,185 台	290,854 台	-30.83 %
	出	192,784 台	273,043 台	-29.39 %
中央道利用台数 (伊那インター分)	入	208,113 台	334,360 台	-37.76 %
	出	213,378 台	341,708 台	-37.56 %
中央道利用台数 (小黒川スマートインター分)	入	74,925 台	107,605 台	-30.37 %
	出	76,317 台	110,347 台	-30.84 %
中央道利用台数 (駒ヶ根インター分)	入	157,309 台	260,354 台	-39.58 %
	出	159,896 台	261,184 台	-38.78 %
中央道利用台数 (駒ヶ岳スマートインター分)	入	40,440 台	55,228 台	-26.78 %
	出	36,428 台	49,384 台	-26.24 %
中央道利用台数 (松川インター分)	入	153,334 台	229,200 台	-33.10 %
	出	148,620 台	219,186 台	-32.19 %

前期 1 - 3月 今期 4 - 6月 来期 7 - 9月 10 - 12月の四半期毎集計

※このレポートは、当金庫のお取引先198社に対し、2020年4月～6月期の景気の現状と2020年7月～9月期の見通しを調査したものです。

地区内の景況観

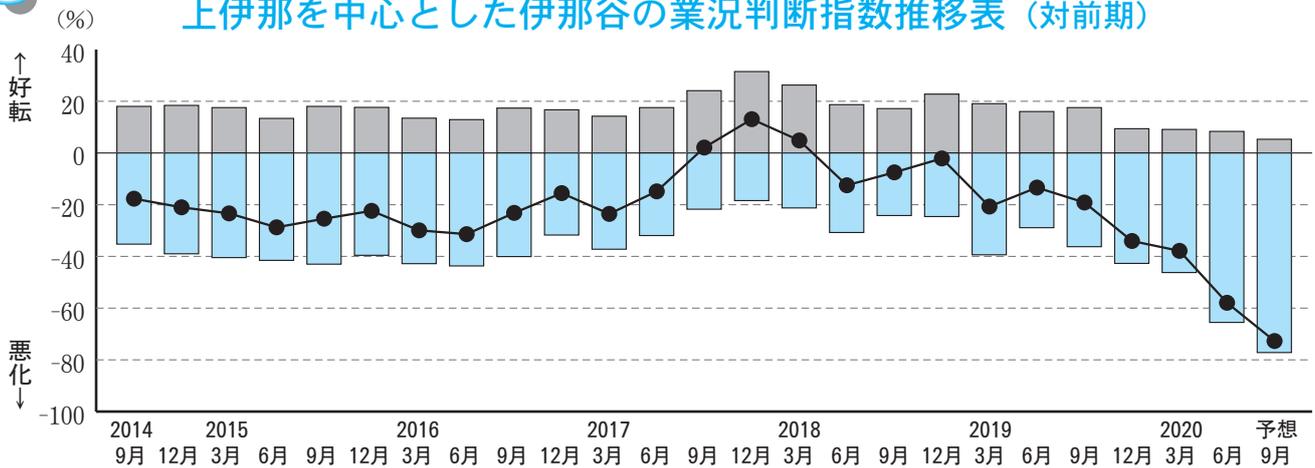
◇**今期の業況**：今期の上伊那地区内の業況を総合的に見ると、良かったとする企業は8.8%（前期9.6%）、悪かったとする企業は66.9%（前期47.2%）、DIは▲58.0（前期▲37.6）と20.4ポイントの下降で、業況感は厳しさを増した。

業種別のDIを見ると、**製造業▲69.2**（前期▲50.8）、**建設業▲24.4**（前期0.0）、**卸売業▲80.0**（前期▲55.6）、**小売業▲58.8**（前期▲51.6）、**サービス業▲73.1**（前期▲50.0）、**不動産業▲60.0**（前期▲16.7）で、すべての業種でマイナス領域となっている。前期と比較しても**製造業が▲18.4ポイント**、**建設業が▲24.4ポイント**、**卸売業が▲24.4ポイント**、**小売業が▲7.2ポイント**、**サービス業が▲23.1ポイント**、**不動産業が▲43.3ポイント**と、すべての業種で後退している。

◇**来期の見通し**：来期の業況予想を総合的に見ると、良いと予想する企業は5.6%（今期8.8%）、悪いと予想する企業は78.8%（今期66.9%）、DIは▲73.2（今期▲58.0）で、今期を更に上回る悪化を予想している。

業種別のDIを見ると、**製造業▲73.8**、**建設業▲48.8**、**卸売業▲90.0**、**小売業▲87.9**、**サービス業▲88.0**、**不動産業▲60.0**ポイントとなっており、全ての業種でマイナス領域を予想している。今期と比較しても、**不動産業が水面下ながら変わらない予想であるものの**、その他の業種は、**製造業が▲4.6ポイント**、**建設業が▲24.4ポイント**、**卸売業が▲110.0ポイント**、**小売業が▲29.1ポイント**、**サービス業が▲14.9ポイント**とそれぞれ悪化が強まる見通しとなっている。

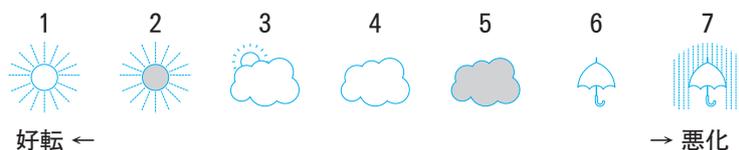
上伊那を中心とした伊那谷の業況判断指数推移表（対前期）



※棒グラフは業況判断指数、折れ線グラフはDIを表しています。
 ※DIとは、増加（好転）企業割合から減少（悪化）企業割合を差し引いた数値で、どちらの力が強いかで業況を判断しています。
 なお、「仕入価格」については下降割合から上昇割合を、「販売価格」については上昇割合から下降割合をそれぞれ差し引いた数値で判断しています。

業種別天気図

業種	時期	2019年 10~12月期	2020年 1~3月期	2020年 4~6月期	2020年 7~9月期予想
総合		☔	☔	☔	☔
製造業		☔	☔	☔	☔
建設業		☁	☁	☁	☔
卸売業		☔	☔	☔	☔
小売業		☔	☔	☔	☔
サービス業		☔	☔	☔	☔
不動産業		☁	☁	☔	☔



製造業 (調査先企業73社 うち回答企業65社)

◇**今期の業況**：今期の業況は、良かったとする企業は**6.2%**(前期**6.2%**)、悪かったとする企業は**75.4%**(前期**56.9%**)で、DIは**▲69.2**(前期**▲50.8**)、**▲18.4**ポイントと水面下での更なる悪化となった。

各指標別を前期比で見ると、売上額のDIは**▲63.1**(前期**▲49.2**)、収益のDIは**▲64.6**(前期**▲50.8**)、受注残のDIは**▲58.5**(前期**▲46.2**)と減少幅が拡大。価格の面では、原材料価格のDIは**0.0**(前期**▲21.5**)で上昇したとする企業の割合は減少した。販売価格のDIは**▲3.1**(前期**▲9.2**)と**6.1**ポイント厳しさは和らいでいる。資金繰りのDIは、**▲36.9**(前期**▲15.4**)と窮屈感は強まっている。借入れをした企業は**41.5%**(前期**35.9%**)と**5.6%**増加し、設備投資の実施をした企業は**43.6%**(前期**40.0%**)と**3.6%**増加している。

前年同期比で見ると、売上額のDIは**▲70.8**(前年同期**▲36.8**)、収益のDIは**▲67.7**(前年同期**▲38.2**)とそれぞれ**▲34.0**ポイント、**▲29.5**ポイントと水面下にて更に落ち込んでいる。

◇**来期の見通し**：来期の見通しについて、業況のDIは**▲73.8**(今期**▲69.2**)と**4.6**ポイントの下降で、水面下において更なる悪化の予想をしている。

各指標別を今期と比べてみると、売上額のDIは**▲53.1**(今期**▲63.1**)、受注残のDIは**▲46.0**(今期**▲58.5**)、収益のDIは**▲57.8**(今期**▲64.6**)と少しずつ改善すると予想している。原材料価格のDIは**▲3.1**(今期**0.0**)、販売価格のDIにおいても**▲9.4**(今期**▲3.1**)と来期においても変わらず低迷予想、資金繰りのDIは**▲35.9**(今期**▲36.9**)と窮屈感はやや弱まる見通しである。借入れを予定している企業は**51.6%**(今期実施**41.5%**)、設備投資の実施を予定している企業は**38.7%**(今期実施**43.6%**)となっている。

◆DI指数推移

	2019年			2020年		予 想
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月
業 況	▲11.8	▲33.8	▲43.8	▲50.8	▲69.2	▲73.8
売 上 額	▲22.1	▲30.8	▲26.6	▲49.2	▲63.1	▲53.1
受 注 残	▲29.4	▲41.5	▲26.6	▲46.2	▲58.5	▲46.0
収 益	▲30.9	▲30.8	▲39.1	▲50.8	▲64.6	▲57.8
販 売 価 格	▲4.4	1.5	▲1.6	▲9.2	▲3.1	▲9.4
原 材 料 価 格	▲26.5	▲16.9	▲17.2	▲21.5	0.0	▲3.1
原 材 料 在 庫	11.8	10.8	10.9	9.2	18.5	15.6
資 金 繰 り	▲13.2	▲15.4	▲15.6	▲15.4	▲36.9	▲35.9

◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合) (%)

	2019年			2020年		予 想	
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	
借 入 実 施	した	29.9	27.0	32.8	35.9	41.5	51.6
	しない	70.1	73.0	67.2	64.1	58.5	48.4
借 入 難 易 度	容 易	8.8	6.2	48.2	12.3	13.8	—
	不 変	67.7	73.8	44.8	70.8	72.3	—
	難	8.8	7.7	2.6	6.2	6.2	—
	該当なし	14.7	12.3	4.4	10.7	7.7	—

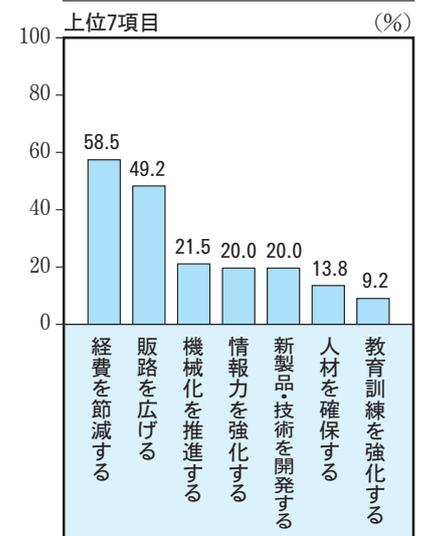
◆設備投資の動き(有効回答に占める割合) (%)

	2019年			2020年		予 想	
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	
実 施	した	40.0	47.5	50.0	40.0	43.6	38.7
	しない	60.0	52.5	50.0	60.0	56.4	61.3
状 況	過 剰	5.9	9.2	7.8	4.6	16.9	18.5
	適 正	88.2	75.4	71.9	76.9	69.3	69.2
	不 足	5.9	15.4	20.3	18.5	13.8	12.3
DI	0.0	▲6.2	▲12.5	▲13.9	3.1	6.2	

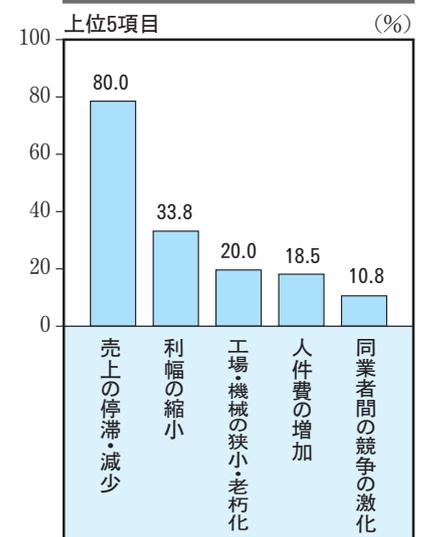
◆雇用面の動き(有効回答に占める割合) (%)

	2019年			2020年		予 想	
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	
残 業 時 間	増 加	5.9	9.2	14.1	10.8	7.7	7.7
	不 変	57.3	57.0	48.4	46.1	35.4	56.9
	減 少	36.8	33.8	37.5	43.1	56.9	35.4
人 手	過 剰	7.4	13.8	14.1	15.4	41.5	41.5
	適 正	70.5	66.2	60.9	63.1	55.4	55.4
	不 足	22.1	20.0	25.0	21.5	3.1	3.1

重点経営施策(複数回答)



経営上の問題点(複数回答)



建設業

(調査先企業43社 うち回答企業43社)

◇**今期の業況**:今期の業況は、良かったとする企業は**12.2%**(前期**16.3%**)、悪かったとする企業は**36.6%**(前期**16.3%**)で、DIは**▲24.4**(前期**0.0**)と**24.4**ポイント悪化に転じた。

各指標別を前期比で見ると、**売上額**のDIは**▲42.5**(前期**▲18.6**)で悪化幅が拡大した。**受注残**のDIは**▲25.0**(前期**▲25.6**)と水面下でほぼ変わらなかったものの、**施工高**のDIは**▲32.5**(前期**▲4.7**)と**▲27.8**ポイントで減少幅が拡大した。**収益**のDIは**▲42.5**(前期**▲20.9**)と**▲21.6**ポイントで更に減少した。**価格面**では、**請負価格**のDIは**▲12.5**(前期**0.0**)と下降に転じ、**材料価格**のDIは**▲25.0**(前期**▲34.9**)と上昇幅は減少している。**資金繰り**のDIは**▲20.0**(前期**▲20.9**)とやや改善した。**借入れ**をした企業は**52.5%**(前期**34.9%**)、**設備投資の実施**をした企業は**55.8%**(前期**41.7%**)となっている。

前年同期比で見ると、**売上額**のDIは**▲37.5**(前年同期**14.0**)で**▲51.5**ポイント、**収益**のDIは**▲42.5**ポイント(前年同期**2.3**)で**▲44.8**ポイントとそれぞれ大幅に減少している。

◇**来期の見通し**:来期の見通しについては、**業況**のDIは**▲48.8**(今期**▲24.4**)と**24.4**ポイント下降、更なる悪化を予想している。各指標別を今期と比べて見ると、**売上額**のDIは**▲42.5**(今期**▲42.5**)と変わらず低迷、**受注残**のDIも**▲35.0**(今期**▲25.0**)と減少を強め、**収益**のDIも**▲47.5**(今期**▲42.5**)と減少は強まる見通しである。**請負価格**のDIは**▲15.4**(今期**▲12.5**)、**材料価格**のDIにおいても**▲15.0**(今期**▲25.0**)とどちらも下降する見通しである。**資金繰り**のDIは**▲27.5**(今期**▲20.0**)と窮屈感は強まる予想である。**借入れ**を予定している企業は**38.5%**(今期**52.5%**)、**設備投資の実施**を予定している企業は**37.2%**(今期**55.8%**)となっている。

※「売上高=完成工事高」、「施工高=出来高」、「請負価格=受注額」

◆DI指数推移

	2019年			2020年		予 想
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月
業 況	4.7	11.9	7.5	0.0	▲24.4	▲48.8
売 上 額	11.6	4.8	0.0	▲18.6	▲42.5	▲42.5
受 注 残	11.6	7.1	▲15.4	▲25.6	▲25.0	▲35.0
収 益	9.3	7.1	▲10.0	▲20.9	▲42.5	▲47.5
販 売 価 格	4.7	2.4	▲7.5	0.0	▲12.5	▲15.4
原 材 料 価 格	▲48.8	▲40.5	▲37.5	▲34.9	▲25.0	▲15.0
原 材 料 在 庫	4.8	2.4	0.0	2.4	▲2.4	0.0
資 金 繰 り	▲9.3	2.4	0.0	▲20.9	▲20.0	▲27.5

◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合) (%)

	2019年			2020年		予 想	
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	
借 入 実 施	した	50.0	35.0	39.5	34.9	52.5	38.5
	しない	50.0	65.0	60.5	65.1	47.5	61.5
借 入 難 易 度	容 易	4.9	7.3	5.4	7.0	10.0	—
	不 変	65.9	68.3	70.3	69.8	70.0	—
	難	14.6	12.2	13.5	7.0	10.0	—
	該当なし	14.6	12.2	10.8	16.2	10.0	—

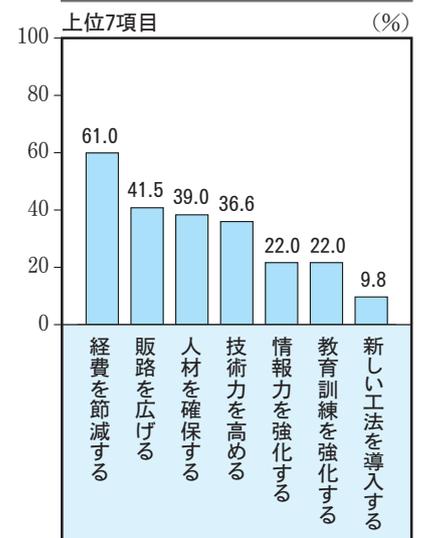
◆設備投資の動き(有効回答に占める割合) (%)

	2019年			2020年		予 想	
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	
実 施	した	43.1	31.1	37.8	41.7	55.8	37.2
	しない	56.9	68.9	62.2	58.3	44.2	62.8
状 況	過 剰	7.1	0.0	0.0	2.4	2.4	2.4
	適 正	81.0	92.5	85.4	85.7	90.3	90.3
	不 足	11.9	7.5	14.6	11.9	7.3	7.3
DI	▲4.8	▲7.5	▲14.6	▲9.5	▲4.9	▲4.9	

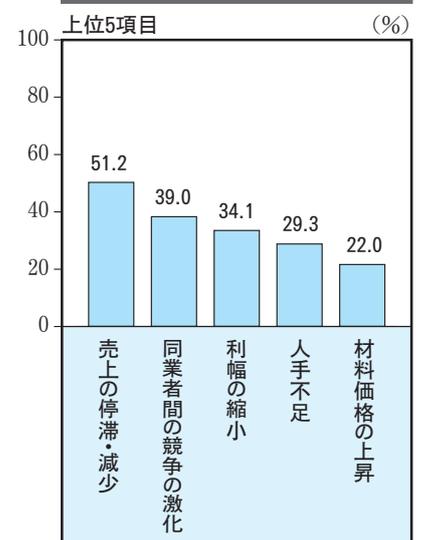
◆雇用面の動き(有効回答に占める割合) (%)

	2019年			2020年		予 想	
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	
残 業 時 間	増 加	7.3	7.3	12.8	7.0	7.5	7.5
	不 変	70.7	78.1	74.4	72.2	62.5	67.5
	減 少	22.0	14.6	12.8	20.8	30.0	25.0
人 手	過 剰	0.0	0.0	5.0	0.0	4.9	7.3
	適 正	53.5	47.6	47.5	53.5	65.8	63.4
	不 足	46.5	52.4	47.5	46.5	29.3	29.3

重点経営施策(複数回答)



経営上の問題点(複数回答)



卸 売 業 (調査先企業10社 うち回答企業10社)

◇**今期の業況**:今期の業況は、良かったとする企業は**0.0%**(前期**11.1%**)、悪かったとする企業は**80.0%**(前期**66.7%**)で、DIは**▲80.0**(前期**▲55.6**)と**24.4**ポイント下降で厳しさを増している。

各指標別を前期比で見ると、売上額のDIは**▲60.0**(前期**▲70.0**)とやや改善されたが、収益のDIは**▲70.0**(前期**▲60.0**)と**▲10.0**ポイント減少で厳しさを強めている。販売価格のDIは**▲20.0**(前期**10.0**)と**30.0**ポイント下降しマイナス領域に転じた。仕入価格のDIは**10.0**(前期**0.0**)と改善している。資金繰りのDIは**▲20.0**(前期**▲40.0**)と厳しさは和らいだ。借入れをした企業は**70.0%**(前期**40.0%**)、設備投資の実施をした企業は**10.0%**(前期**0.0%**)となっている。

前年同期比で見ると、売上額のDIは**▲70.0**(前年同期**33.3**)で**▲103.3**ポイント、収益のDIも**▲60.0**(前年同期**66.7**)で**▲126.7**ポイントとそれぞれ大きなマイナス転換となった。

◇**来期の見通し**:来期の見通しについては、業況のDIは**▲90.0**(今期**▲80.0**)と悪化が強まる予想をしている。

各指標別を今期と比べて見ると、売上額のDIは**▲40.0**(今期**▲60.0**)、収益のDIは**▲40.0**(今期**▲70.0**)とどちらも水面下ながら改善する見通しである。価格面をみると、販売価格のDIは**▲10.0**(今期**▲20.0**)と下降幅は縮小、仕入価格のDIは**10.0**(今期**10.0**)と現状維持の見通しである。資金繰りのDIは**▲40.0**(今期**▲20.0**)と厳しさが増す予想である。借入れを予定している企業は**22.2%**(今期実施**70.0%**)、設備投資の実施を予定している企業は**0.0%**(今期実施**10.0%**)となっている。

◆DI指数推移

	2019年			2020年		予 想
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月
業 況	11.1	22.2	▲50.0	▲55.6	▲80.0	▲90.0
売 上 額	33.3	33.3	▲50.0	▲70.0	▲60.0	▲40.0
収 益	33.3	33.3	▲30.0	▲60.0	▲70.0	▲40.0
販 売 価 格	33.3	11.1	30.0	10.0	▲20.0	▲10.0
仕 入 価 格	▲44.4	▲11.1	▲30.0	0.0	10.0	10.0
在 庫	33.3	22.2	10.0	20.0	30.0	40.0
資 金 繰 り	0.0	▲11.1	▲10.0	▲40.0	▲20.0	▲40.0

◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合) (%)

	2019年			2020年		予 想	
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	
借 入 実 施	した	44.4	33.3	40.0	40.0	70.0	22.2
	しない	55.6	66.7	60.0	60.0	30.0	77.8
借 入 難 易 度	容 易	0.0	0.0	0.0	10.0	10.0	—
	不 変	77.8	77.8	70.0	60.0	70.0	—
	難	11.1	11.1	10.0	10.0	10.0	—
	該当なし	11.1	11.1	20.0	20.0	10.0	—

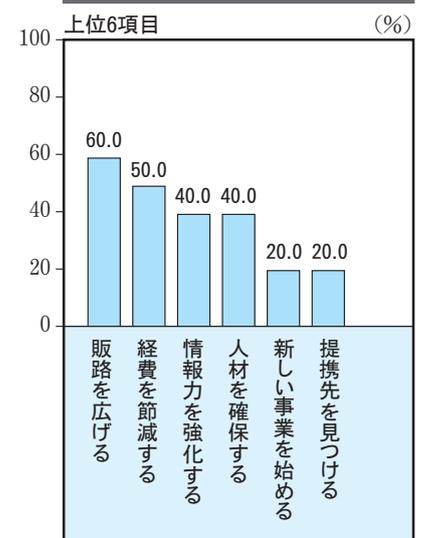
◆設備投資の動き(有効回答に占める割合) (%)

	2019年			2020年		予 想	
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	
実 施	した	30.0	11.1	10.0	0.0	10.0	0.0
	しない	70.0	88.9	90.0	100.0	90.0	100.0
状 況	過 剰	0.0	11.1	0.0	10.0	10.0	10.0
	適 正	88.9	88.9	90.0	90.0	90.0	90.0
	不 足	11.1	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0
DI	▲11.1	11.1	▲10.0	10.0	10.0	10.0	

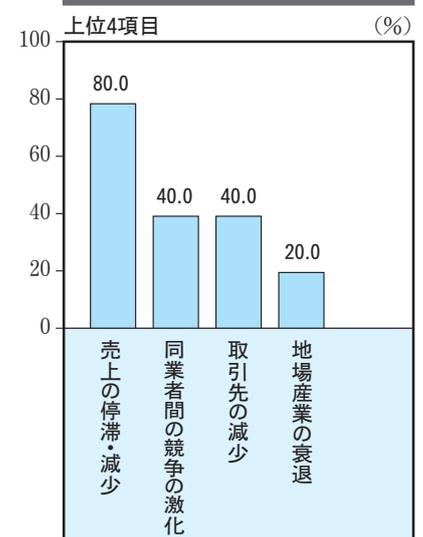
◆雇用面の動き(有効回答に占める割合) (%)

	2019年			2020年		予 想	
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	
残 業 時 間	増 加	22.2	11.1	10.0	10.0	0.0	10.0
	不 変	55.6	88.9	80.0	80.0	60.0	60.0
	減 少	22.2	0.0	10.0	10.0	40.0	30.0
人 手	過 剰	11.1	11.1	10.0	10.0	30.0	30.0
	適 正	66.7	66.7	60.0	90.0	70.0	60.0
	不 足	22.2	22.2	30.0	0.0	0.0	10.0

重点経営施策(複数回答)



経営上の問題点(複数回答)



景況調査レポート

小 売 業 (調査先企業40社 うち回答企業31社)

◇**今期の業況**：今期の業況は、良かったとする企業は**17.6%**(前期**9.7%**)、悪かったとする企業は**76.5%**(前期**61.3%**)で、DIも**▲58.8**(前期**▲51.6**)と厳しさを増している。

各指標別を前期比で見ると、売上額のDIは**▲64.7**(前期**▲22.6**)で**▲42.1**ポイント、収益のDIは**▲67.6**(前期**▲32.3**)で**▲35.3**とそれぞれ減少幅が拡大している。販売価格のDIは**▲29.4**(前期**▲3.2**)で**▲26.2**ポイントと販売価格は更に下降を強め、仕入価格のDIは**8.8**(前期**▲9.7**)で仕入価格については良好感が出てきている。資金繰りのDIは**▲44.1**(前期**▲29.0**)と**▲15.1**ポイントで窮屈感が強まっている。借入れをした企業は**32.4%**(前期**25.8%**)、設備投資の実施をした企業は**20.0%**(前期**28.1%**)となっている。

前年同期比で見ると、売上額のDIは**▲61.8**(前年同期**▲18.2**)で**▲43.6**ポイント、収益のDIも**▲61.8**(前年同期**▲30.3**)で**▲31.5**ポイントでどちらも同様に減少幅が拡大している。

◇**来期の見通し**：来期の見通しについて、業況のDIは**▲87.9**(今期**▲58.8**)と**▲29.1**ポイントで更に悪化が強まる予想をしている。

各指標別を今期と比べて見ると、売上額のDIは**▲54.5**(今期**▲64.7**)、収益のDIは**▲57.6**(今期**▲67.6**)とどちらも減少・減益幅が縮小する見通しである。販売価格のDIは**0.0**(今期**▲29.4**)と回復傾向となるが、仕入価格のDIは**▲12.1**(今期**8.8**)と厳しい状況に転じる見通しである。借入れを予定している企業は**26.5%**(今期実施**32.4%**)、設備投資の実施を予定している企業は**17.6%**(今期実施**20.0%**)となっている。

◆DI指数推移

	2019年			2020年		予 想
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月
業 況	▲33.3	▲23.3	▲51.6	▲51.6	▲58.8	▲87.9
売 上 額	▲42.4	▲31.3	▲9.4	▲22.6	▲64.7	▲54.5
収 益	▲42.4	▲25.0	▲25.0	▲32.3	▲67.6	▲57.6
販 売 価 格	3.0	12.5	9.4	▲3.2	▲29.4	0.0
仕 入 価 格	▲30.3	▲12.5	▲37.5	▲9.7	8.8	▲12.1
在 庫	6.1	9.4	12.5	3.2	▲8.8	▲12.1
資 金 繰 り	▲21.2	▲9.4	▲28.1	▲29.0	▲44.1	▲42.4

◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合) (%)

	2019年			2020年		予 想	
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	
借 入 実 施	した	12.1	37.5	32.3	25.8	32.4	26.5
	しない	87.9	62.5	67.7	74.2	67.6	73.5
借 入 難 易 度	容 易	12.1	18.8	9.4	20.0	23.5	—
	不 変	48.5	46.8	53.1	46.7	41.2	—
	難	18.2	18.8	15.6	13.3	14.7	—
	該当なし	21.2	15.6	21.9	20.0	20.6	—

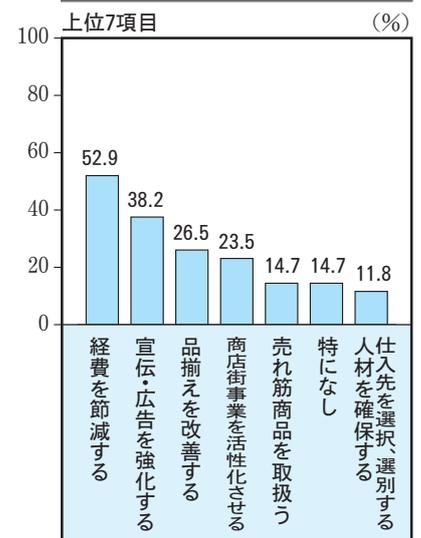
◆設備投資の動き(有効回答に占める割合) (%)

	2019年			2020年		予 想	
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	
実 施	した	21.2	37.1	29.4	28.1	20.0	17.6
	しない	78.8	62.9	70.6	71.9	80.0	82.4
状 況	過 剰	3.1	3.2	3.1	6.5	5.9	5.9
	適 正	75.0	74.2	75.0	77.4	76.5	76.5
	不 足	21.9	22.6	21.9	16.1	17.6	17.6
DI	▲18.8	▲19.4	▲18.8	▲9.6	▲11.7	▲11.7	

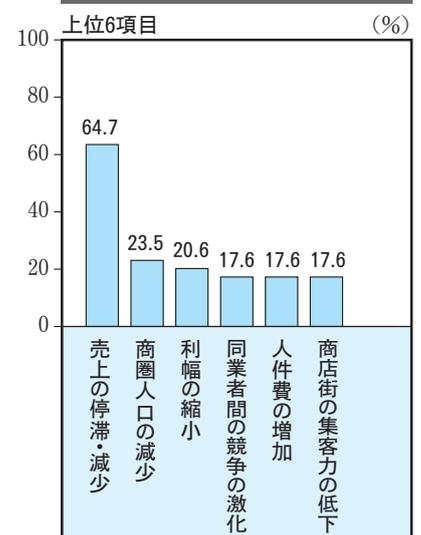
◆雇用面の動き(有効回答に占める割合) (%)

	2019年			2020年		予 想	
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	
残 業 時 間	増 加	6.1	0.0	6.3	3.3	11.8	5.9
	不 変	87.8	87.1	81.2	80.0	58.8	64.7
	減 少	6.1	12.9	12.5	16.7	29.4	29.4
人 手	過 剰	3.0	6.5	6.3	6.7	11.8	14.7
	適 正	66.7	67.7	68.7	83.3	67.6	67.7
	不 足	30.3	25.8	25.0	10.0	20.6	17.6

重点経営施策(複数回答)



経営上の問題点(複数回答)



サービス業 (調査先企業27社 うち回答企業24社)

◇**今期の業況**：今期の業況は、良かったとする企業は**3.8%**（前期**8.3%**）、悪かったとする企業は**76.9%**（前期**58.3%**）で、DIは**▲73.1**（前期**▲50.0**）と悪化幅は**23.1**ポイント拡大している。

各指標別を前期比で見ると、**売上額**のDIは**▲65.4**（前期**▲45.8**）と**19.6**ポイント減少幅が拡大、**収益**のDIにおいても**▲69.2**（前期**▲45.8**）と**23.4**ポイント更に減少している。仕入価格のDIは**▲19.2**（前期**▲20.8**）と仕入価格の上昇幅は縮小している、**料金価格**のDIは**▲15.4**（前期**▲12.5**）と下降を強めている。**資金繰り**のDIは**▲53.8**（前期**▲37.5**）と厳しさを増している状況。**借入れ**をした企業は**60.9%**（前期**29.2%**）、**設備投資の実施**をした企業は**16.0%**（前期**23.1%**）となっている。

前年同期比で見ると、**売上額**のDIは**▲84.6**（前年同期**▲4.2**）で**▲80.4**ポイント、**収益**のDIは**▲84.6**（前年同期**▲12.5**）で**▲72.1**ポイントで、いずれも大幅に減少を強めている。

◇**来期の見通し**：来期の見通しについて、**業況**のDIは**▲88.0**（今期**▲73.1**）と水面下のまま**14.9**ポイント下降で更に悪化が強まる予想をしている。

各指標別を今期と比べて見ると、**売上額**のDIは**▲38.5**（今期**▲65.4**）で**26.9**ポイント、**収益**のDIにおいても**▲38.5**（今期**▲69.2**）で**30.7**ポイントといずれも減少・減益幅が縮小する予想。**仕入価格**のDIは**▲23.1**（今期**▲19.2**）と上昇幅が拡大する見通し。**料金価格**のDIは**3.8**（今期**▲15.4**）と良好感が出てくる見通しである。**資金繰り**のDIは**▲53.8**（今期**▲53.8**）と厳しさは変わらない見通しである。**借入れ**を予定している企業は**43.5%**（今期実施**60.9%**）、**設備投資の実施**を予定している企業は**25.9%**（今期実施**16.0%**）となっている。

◆DI指数推移

	2019年			2020年		予 想
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月
業 況	▲25.0	▲45.5	▲52.4	▲50.0	▲73.1	▲88.0
売 上 額	▲4.2	▲4.3	▲38.1	▲45.8	▲65.4	▲38.5
収 益	0.0	▲13.0	▲33.3	▲45.8	▲69.2	▲38.5
料 金 価 格	20.8	4.3	9.5	▲12.5	▲15.4	3.8
材 料 価 格	▲50.0	▲47.8	▲52.4	▲20.8	▲19.2	▲23.1
資 金 繰 り	▲12.5	▲26.1	▲47.6	▲37.5	▲53.8	▲53.8

◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合) (%)

	2019年			2020年		予 想	
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	
借 入 施	し た	16.7	22.7	19.0	29.2	60.9	43.5
	し ない	83.3	77.3	81.0	70.8	39.1	56.5
借 入 難 易 度	容 易	4.2	4.5	4.8	9.1	23.1	—
	不 変	83.3	77.4	80.9	59.1	61.5	—
	難	8.3	4.5	4.8	4.5	7.7	—
	該 当 なし	4.2	13.6	9.5	27.3	7.7	—

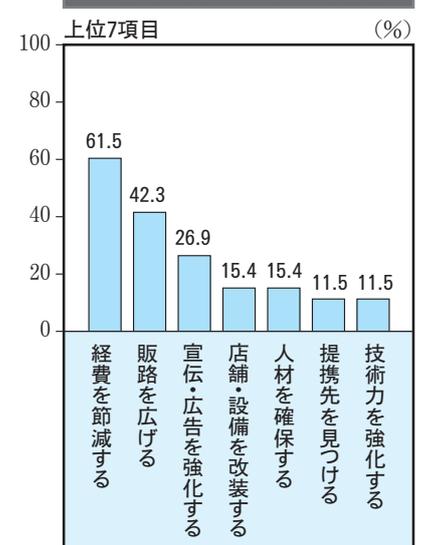
◆設備投資の動き(有効回答に占める割合) (%)

	2019年			2020年		予 想	
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	
実 施	し た	4.2	26.9	36.4	23.1	16.0	25.9
	し ない	95.8	73.1	63.6	76.9	84.0	74.1
状 況	過 剰	0.0	0.0	5.3	4.3	8.0	0.0
	適 正	87.0	81.8	63.1	69.6	84.0	87.0
	不 足	13.0	18.2	31.6	26.1	8.0	13.0
DI	▲13.0	▲18.2	▲26.3	▲21.8	0.0	▲13.0	

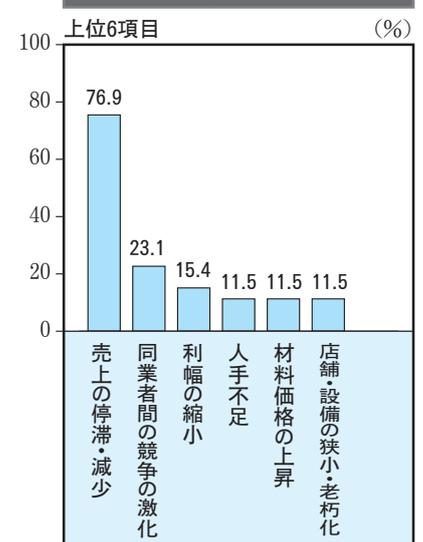
◆雇用面の動き(有効回答に占める割合) (%)

	2019年			2020年		予 想	
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	
残 業 時	増 加	14.3	14.3	10.5	9.5	0.0	4.0
	不 変	71.4	71.4	73.7	52.4	44.0	48.0
	減 少	14.3	14.3	15.8	38.1	56.0	48.0
人 手	過 剰	0.0	4.3	5.0	17.4	32.0	20.0
	適 正	60.9	60.9	55.0	47.8	56.0	64.0
	不 足	39.1	34.8	40.0	34.8	12.0	16.0

重点経営施策(複数回答)



経営上の問題点(複数回答)



不動産業 (調査先企業6社 うち回答企業6社)

◇**今期の業況**:今期の業況は、良かったとする企業は**0.0%**(前期**0.0%**)、悪かったとする企業は**60.0%**(前期**16.7%**)で、DIは**▲60.0**(前期**▲16.7**)と深刻さを増している。

各指標別を前期比で見ると、売上額のDIは**▲80.0**(前期**▲33.3**)と**▲46.7**ポイント、収益のDIも**▲80.0**(前期**▲16.7**)と**▲63.3**ポイントで、いずれも更に減少している。販売価格のDIは**▲20.0**(前期**0.0**)と下降へ転じており、仕入価格のDIは**20.0**(前期**16.7**)と下降している。資金繰りのDIは、**20.0**(前期**33.3**)と容易さは縮小している。借入れをした企業は**40.0%**(前期**33.3%**)となっている。

前年同期比で見ると、売上額のDIは**▲80.0**(前年同期**0.0**)と減少に転じ、収益のDIも**▲80.0**(前年同期**0.0**)と同様に減少に転じた。

◇**来期の見通し**:来期の見通しについては、業況のDIは**▲60.0**(今期**▲60.0**)と厳しさは変わらず続くと予想している。

各指標別を今期と比べて見ると、売上額のDIは**▲20.0**(今期**▲80.0**)、収益のDIも**▲20.0**(今期**▲80.0**)と回復する方向の見通しである。販売価格のDIは**▲40.0**(今期**▲20.0**)と下降傾向の見通しであり、仕入価格のDIにおいても**40.0**(今期**20.0**)と下降傾向を強める見通しである。資金繰りのDIは、**0.0**(今期**20.0**)と容易さは更に縮小する見通しである。借入れを予定している企業は**40.0%**(今期実施**40.0%**)となっている。

◆DI指数推移

	2019年			2020年		予 想
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月
業 況	▲16.7	0.0	▲16.7	▲16.7	▲60.0	▲60.0
売 上 額	▲33.3	20.0	▲50.0	▲33.3	▲80.0	▲20.0
収 益	▲33.3	20.0	▲50.0	▲16.7	▲80.0	▲20.0
販 売 価 格	▲16.7	0.0	▲16.7	0.0	▲20.0	▲40.0
仕 入 価 格	0.0	0.0	16.7	16.7	20.0	40.0
在 庫	▲33.3	▲20.0	▲33.3	▲33.3	▲60.0	▲40.0
資 金 繰 り	▲83.3	20.0	33.3	33.3	20.0	0.0

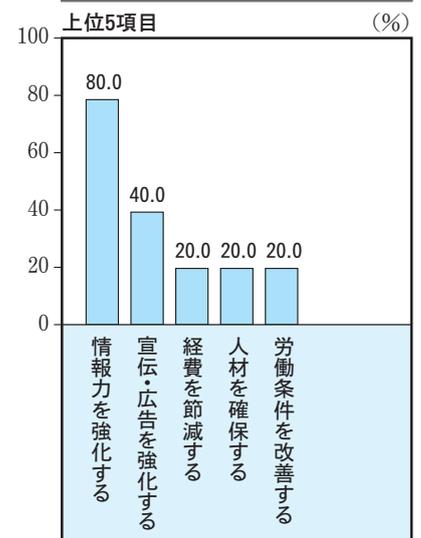
◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合) (%)

	2019年			2020年		予 想	
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	
借 入 実 施	し た	16.7	0.0	16.7	33.3	40.0	40.0
	し ない	83.3	100.0	83.3	66.7	60.0	60.0
借 入 難 易 度	容 易	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—
	不 変	66.7	80.0	66.7	83.3	100.0	—
	難	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—
	該 当 なし	33.3	20.0	33.3	16.7	0.0	—

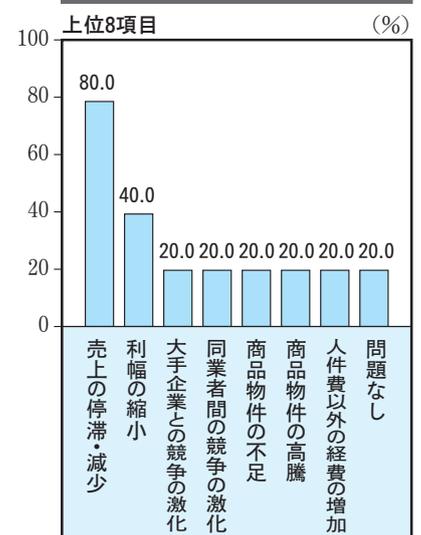
◆雇用面の動き(有効回答に占める割合) (%)

	2019年			2020年		予 想	
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	
残 業 時 間	増 加	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	不 変	83.3	100.0	100.0	83.3	80.0	100.0
	減 少	16.7	0.0	0.0	16.7	20.0	0.0
人 手	過 剰	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	適 正	83.3	80.0	100.0	83.3	80.0	100.0
	不 足	16.7	20.0	0.0	16.7	20.0	0.0

重点経営施策(複数回答)



経営上の問題点(複数回答)



特別調査 新型コロナウイルスの感染拡大による中小企業への影響について

問1 貴社の事業活動は、新型コロナウイルスによる影響を受けていますか。

総合では、「営業活動の自粛」が最も多く43.1%、続いて「国内消費の不振」が22.2%、「取引先の閉鎖等の混乱」が10.9%、「展示会、イベント、商談会等の中止・延期」が9.2%の順となっている。

業種別に見ても、すべての業種で「営業活動の自粛」の影響とする企業が最も多かったが、次に影響があったとする要因として「国内消費の不振」とした業種は製造業、卸売業、小売業、サービス業、「サプライチェーン寸断等により原材料等の調達が困難」とした業種は製造業、不動産業であった。また、すべての業種、すべての企業で何らかの影響があったとしている。

	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
1. 営業活動の自粛	43.1	48.4	28.9	30.0	45.5	45.5	83.3
2. 展示会、イベント、商談会等の中止・延期	9.2	5.5	15.6	10.0	11.4	9.1	0.0
3. 国内消費の不振	22.2	23.1	17.8	25.0	27.3	21.2	0.0
4. インバウンド需要の低下	1.3	0.0	2.2	0.0	0.0	6.1	0.0
5. サプライチェーン寸断等により原材料等の調達が困難	8.8	5.5	20.0	20.0	2.3	3.0	16.7
6. 出社困難者の発生	0.8	1.1	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0
7. 店舗や工場等の閉鎖	2.9	1.1	4.4	0.0	6.8	3.0	0.0
8. 取引先の閉鎖等の混乱	10.9	14.3	8.9	15.0	4.5	12.1	0.0
9. その他()	0.8	1.1	0.0	0.0	2.3	0.0	0.0
10. 特に影響はなし	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問2 新型コロナウイルス感染拡大を受けて、貴社ではどのような対応をとられていますか。

総合では、「生産量・営業時間の縮小」が最も多く36.4%、続いて「特に対応を行っていない」が23.7%、「パートなど非正規社員の勤務時間削減」が10.2%、「給与やボーナス、手当の削減」が8.5%、「事業の抜本的な見直し」が5.5%であった。

業種別に見ると、「生産量・営業時間の縮小」は、不動産業が57.1%、製造業が46.2%、小売業が38.1%、サービス業が35.0%、卸売業が25.0%で最も多い対応であった。また、建設業は「特に対応を行っていない」が56.8%で最も多い回答であった。

	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
1. 生産量・営業時間の縮小	36.4	46.2	15.9	25.0	38.1	35.0	57.1
2. 生産量・営業時間の拡大	0.8	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
3. 取引条件の見直し	3.0	1.1	4.5	8.3	2.4	2.5	14.3
4. 事業の抜本的な見直し	5.5	4.4	2.3	16.7	9.5	5.0	0.0
5. 社員の削減(非正規職員を含む)	2.1	2.2	0.0	8.3	2.4	2.5	0.0
6. パートなど非正規社員の勤務時間削減	10.2	9.9	6.8	8.3	2.4	22.5	14.3
7. 給与やボーナス、手当の削減	8.5	11.0	9.1	0.0	7.1	7.5	0.0
8. 休廃業の検討	4.2	5.5	2.3	0.0	4.8	5.0	0.0
9. その他()	5.5	5.5	2.3	16.7	4.8	7.5	0.0
10. 特に対応を行っていない	23.7	12.1	56.8	16.7	28.6	12.5	14.3

問3 貴社における今期(4~6月)の売上は、仮に新型コロナウイルスの影響がなかった場合(例年の4~6月)と比較して、どの程度変化しましたか。

総合では、「ほぼ変化なし(10%未満の増減)」が最も多く35.8%、「10%以上30%未満の減少」が27.4%、「30%以上50%未満の減少」が11.2%、続いて「10%以上30%未満の増加」8.4%となった。

業種別に見ると、「ほぼ変化なし(10%未満の増減)」が最も多いと回答した業種では、建設業が43.9%、製造業が40.0%、卸売業が40.0%、小売業が31.3%、サービス業が23.1%の順であった。また、不動産業では「10%以上30%未満の減少」が60.0%で最も多い回答となった。

	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
1. 90以上の減少	2.8	0.0	0.0	0.0	3.1	15.4	0.0
2. 70以上90未満の減少	6.1	3.1	4.9	0.0	12.5	11.5	0.0
3. 50以上70未満の減少	7.3	3.1	7.3	10.0	15.6	3.8	20.0
4. 30以上50未満の減少	11.2	13.8	4.9	20.0	9.4	11.5	20.0
5. 10以上30未満の減少	27.4	24.6	34.1	30.0	18.8	26.9	60.0
6. ほぼ変化なし(10%未満の増減)	35.8	40.0	43.9	40.0	31.3	23.1	0.0
7. 10以上30未満の増加	8.4	13.8	4.9	0.0	6.3	7.7	0.0
8. 30以上の増加	1.1	1.5	0.0	0.0	3.1	0.0	0.0

問 4 貴社では、危機関連保証や制度融資など、新型コロナ対応の資金繰り支援制度を利用しましたか。

「新型コロナ対応の資金繰り支援制度」については、総合では、「すでに利用した」および「申請中である」が42.2%、「今後、利用する可能性がある」が33.7%、「今後も利用するつもりはない」が23.0%、「申請したが、利用できなかった」が1.1%、の順であった。業種別に見ると「すでに利用した」および「申請中である」が多いのは、卸売業が70.0%、小売業が48.4%、サービス業が48.0%、製造業が43.3%、不動産業が40.0%の順で、建設業は25.0%であった。また、不動産業では企業の60.0%が「今後も利用するつもりはない」の回答であった。

「政府による支援策」については、総合では、「すでに利用した」および「申請中である」が31.2%、「今後、利用する可能性がある」が41.2%、「今後も利用するつもりはない」が26.5%、「申請したが、利用できなかった」が1.2%の順であった。業種別に見ると「すでに利用した」および「申請中である」が多いのは卸売業で50.0%、「今後、利用する可能性がある」が多いのは卸売業が50.0%、建設業が48.8%、製造業が46.8%、「今後も利用するつもりはない」が多いのは不動産業で50.0%であった。

(%)

	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
新型コロナ対応の資金繰り支援制度							
1. すでに利用した	27.0	22.4	20.0	60.0	25.8	36.0	40.0
2. 申請中である	15.2	20.9	5.0	10.0	22.6	12.0	0.0
3. 今後、利用する可能性がある	33.7	40.3	45.0	20.0	22.6	24.0	0.0
4. 今後も利用するつもりはない	23.0	16.4	30.0	10.0	25.8	24.0	60.0
5. 申請したが、利用できなかった	1.1	0.0	0.0	0.0	3.2	4.0	0.0
政府による支援策							
6. すでに利用した	11.8	11.3	4.9	0.0	17.2	25.0	0.0
7. 申請中である	19.4	24.2	9.8	50.0	17.2	12.5	25.0
8. 今後、利用する可能性がある	41.2	46.8	48.8	50.0	31.0	25.0	25.0
9. 今後も利用するつもりはない	26.5	17.7	34.1	0.0	31.0	37.5	50.0
10. 申請したが、利用できなかった	1.2	0.0	2.4	0.0	3.4	0.0	0.0

問 5 災害や急な不況の対策として、常時、手元の流動性資金の確保をしていると思いますが、貴社では、新型コロナウイルスの影響が出る以前、現預金をどの程度保有していましたか。また、貴社では2020年中の資金繰りについて、どうお考えですか。

「現預金の保有程度」については、総合では「売上の1～3か月分」が37.2%、「売上の3か月分以上」が26.2%、「売上の2週間分～1か月分」が15.7%の順となった。これに対して「ほとんど保有していない」は11.1%であった。これを業種別に見ると、不動産業において「売上の3か月分以上」が最多の回答であった以外は他の全ての業種で「売上の1～3か月分」が大きな割合を示していた。

「2020年中の資金繰り」については、総合では「やや不安がある」が42.0%、「かなり不安がある」が28.7%、「あまり不安はない」が19.0%、「不安はない」が10.3%の順となった。これを業種別に見ると、製造業、建設業、卸売業、小売業で「やや不安がある」が最も多かったのに対し、サービス業では「かなり不安がある」が最も多い回答となった。一方、不動産業では「不安はない」と「あまり不安はない」がそれぞれ50%の回答となった。

(%)

【複数回答】	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
現預金の保有程度							
1. 売上の3か月分以上	26.2	30.2	23.1	0.0	29.0	23.1	66.7
2. 売上の1～3か月分	37.2	41.3	43.6	30.0	29.0	30.8	33.3
3. 売上の2週間分～1か月分	15.7	19.0	10.3	30.0	12.9	15.4	0.0
4. 売上の2週間分未満	8.1	6.3	5.1	30.0	6.5	11.5	0.0
5. ほとんど保有していない	11.0	3.2	12.8	10.0	19.4	19.2	0.0
6. 把握していない	1.7	0.0	5.1	0.0	3.2	0.0	0.0
2020年中の資金繰り							
7. 不安はない	10.3	7.9	9.8	10.0	10.0	11.5	50.0
8. あまり不安はない	19.0	23.8	19.5	20.0	6.7	15.4	50.0
9. やや不安がある	42.0	46.0	48.8	50.0	43.3	23.1	0.0
10. かなり不安がある	28.7	22.2	22.0	20.0	40.0	50.0	0.0